

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103862
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	すみれの里
所在地	松山市南高井1808-4
自己評価作成日	H27年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 9 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは玄関に四季折々の花を植えて利用者と一緒に世話をして力をいれている。個別のケアを目標に個々レベルに合わせてケアするのが普通となっている。笑顔で楽しく高齢者と話ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から約11年経過した事業所では、共有空間の様態替えをはじめ、花や野菜などの世話や収穫を通じて、季節感を感じてもらうことを大切に考え支援している。ユニット内では猫も同居し、自由に過ごせる雰囲気があり、職員の配慮ある声かけは入居者の安心した生活へとつながっている。職員は話しやすい雰囲気の下で、管理者や本部責任者などと日々話し合い、よりよい事業所作りに取り組んでいる姿勢は評価できる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 すみれの里

(ユニット名) かりんと

記入者(管理者)
氏名 花山朋美

評価完了日 平成 27 年 8 月 11 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を、職員や来客者の目につきやすい場所に掲示している。また職員は、理念を共有し、改めて考える事が出来る様に話し合っている。	
			(外部評価) 約5年前に、理念がより分かりやすいものとなるよう職員アンケートを取り、その内容を素にして本部が作成した理念や基本方針へと変更された。理念は職員トイレとリビングに掲示されている。いつでも職員が見れる状況にあり、さらに管理者が職員に説明することで理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内会へ参加させて頂いている。また地方祭ではお神輿や、子供獅子舞などに来て頂き交流を図っている	
			(外部評価) 地域の祭りや獅子舞などが事業所を訪れるなどの交流がある。また、地区の文化祭に呼ばれて参加している。昨年は南高井の文化祭にも参加した。昨年町内会長が交代し、町内会長に地域への積極的参加を申し出たが、現在は行事に関する情報提供に留まっている。地域の方に会えばコミュニケーションを取るように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営会議やホームでの催し物行事を通し利用者様の生活をみて頂いています	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 定期的に行っている運営会議などで、地域の民生員さんなどと、情報を交換している。また出来る限り家族様にも声をかけ参加して頂くようにしています</p> <p>(外部評価) 民生委員（2地区）、市介護保険課、松山市社協、地域包括支援センター職員、家族、利用者の参加を得て、行事報告、事故報告、感染症対策、虐待に関することなどを検討している。家族の参加者は少ないが、入居当初の会議には必ず参加してもらえるように声をかけている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営会議に、介護保険課、地域包括センターの方に参加して頂いています。分からないことなど質問し、その都度返答を頂いています。</p> <p>(外部評価) 市の介護保険担当者とは話しやすい関係にあり、日頃から分からないことは運営推進会議の時などに相談できている。また、電話でも相談できる体制ができており、直接聞ける良い関係となっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束に対しての研修を行い。拘束はしてはいけないものという当たり前の理念のもと介助を行っています。また、職員間でこれって拘束になるんじゃないかな？どうかな？といった意見の交換も行っています。</p> <p>(外部評価) 虐待や身体拘束に関する研修が実施されている。2階玄関は人を感知するセンサーを利用するなど、見守りや声かけなどの対応を心掛けている。虐待や身体拘束に関する研修後は、ミーティングや日々の話し合いで言葉かけやかかわり方への疑問を出し合うなどの意識が高まっている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修やミーティング等にて意見を交換しています。また日常的に、声の大きさや態度等お互いに注意出来る関係を築いています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などに参加し、分からない事等は調べ学ぶ機会を持っている。また知りえた事はミーティングなどで報告し、情報を共有している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前にご家族様の疑問や分からない事をお聞きし、説明を行っている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会に来られた際、何か要望や意見がないかお聞きするようにしている。また玄関に意見BOXの設置を行っている	
			(外部評価) 意見箱は設置されているが、利用者の家族から直接話を聞くことが多い。得た意見は職場内で検討したり、上司に報告しグループ内の会議にかけるなど、改善する方向で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングの時など意見を交換し合い、出された意見や要望は管理者に伝えている	
			(外部評価) ユニット内ミーティングや日常会話の中で意見を言いやすい状況があり、管理者は職員の意見やアイデアを積極的に取り入れようとしている。人手不足に関する要望など言える雰囲気があり、施設内やグループ内における風通しは良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 長く勤めている職員と、新しくは入られた職員との差があまりない様にかんじる。資格等に関しては手当などがあり満足している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月に一度、ホームにて勉強会を行って、それぞれにレポートを提出してもらっている。また勉強したことを活かせるように努めている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループとの交流はあまり行えていない	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 生活歴を踏まえて本人のこれまでの行動や、不安に思っている事を詳しくお聞きし、解決できるように努めている。また知りえた情報は職員全員で共有している	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 不安に思っている事や、こうしてほしいという思いをしっかりと聞きし、話し合いを重ね信頼関係が築けるように心がけています	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 生活歴をふまえて本人の行動や、不安に思っている事をお聞きし解決できる様につとめています。知りえた情報は職員間で共有し、皆で問題解決に取り組んでいます	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 少し元気がないときには声を掛けたり、気に掛けたりしています。私たちが分からないことなどは知恵を貸していただいたりもしています。たくさん笑って共に過ごす時間が良い物になればと思っています	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に家族様の思いをお聞きする様にしている。また利用者様にも可能であれば、どんなことを望んでいるのかお聞きし、共に支えて行ける関係を築けるように努めている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人がこれまで通っていた病院など、出来るかぎり継続し通院できるように努めています	
			(外部評価) 馴染みの美容師さんの訪問や友人の訪問を応援している。また、以前利用していた介護保険サービスの従業者との交流もある。さらに、以前勤めていた職員が訪れるなどの交流により、馴染みの人との関係を保てるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いに話しかけても、返答がなかったり、違う事を話されていたりするが、共同で行う作業、レクレーション等に参加して頂いたり、職員が間に入り、話をしたりなどして、関わり合いを持って頂いている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された後も、手紙を書いたりなどで連絡を取っている。必要な時には相談にのれるように努めている。先日は退所されたご家族様がホームを尋ねていただきました	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 無理な希望など、出来ない事は有るが、「こうしたい」何かをしたいという希望や思いを実現できる様に努めている (外部評価) 業務中に管理者が疑問を投げかけて職員間で話し合いを持ち、利用者の生活上の思いや意向を理解するように努めている。職員は、言葉を発することの少ない利用者の思いが十分に把握できていない、できることが少なくなりつつあると感じ、改善の方策を模索している。	利用者の残された能力を引き出すためには、危険を防止しつつできることにチャレンジする必要がある。利用者と共に行動する場面を作り、利用者の思いを知り、利用者がしたいことが分かる取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) これまでどんな生活をされてきたか、生活歴などを聞き情報提供書に記入している、その他の情報も時間をかけ収集し、サービス利用の経過等の把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日一日違った行動をされ、昨日出来ていたことが今日はできないといった事があるが、その人に合った援助が出来る様に現状把握できるように努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ミーティング時にケアの反省等を話し合い、次はどんな風にしたらよいか、現状に合わせたプランを作成しています	
			(外部評価) 各ユニット会議やミーティングにおいて担当職員が日々の観察をもとに考え提出した内容を検討し、管理者や計画作成担当者が職員全員に話をしながら意見をまとめ、その人らしいケアプランの作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケアプランの見直しをミーティングの時に行っている。今どんなケアが必要か？こんな風にしたら良かったよ等、日々の生活の中で気が付いたことは個人記録や申し送りノートに記入し情報を共有しています	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) ニーズに応じて対応出来る様に心掛けています	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ホーム周辺の地域資源を把握し、協力を得られる様に努めています。利用者様が豊かな暮らしを楽しめるように支援しています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけの医師による、その人に合った支援が受けれる様 にしています (外部評価) 入居時にかかりつけ医に関する説明を受けて選ぶことがで き、協力医療機関2か所から月2回ずつ往診や随時の協力体 制がある。また、家族が協力できるのであれば以前のかか りつけ医での対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 様子がおかしいな、と感じた時には早い段階で、医師や家族 様と連絡をとりながら、利用者様個人の健康管理に努めてい る	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) ご家族様、病院関係者と相談しながら、早期退院ができるよ うに努めています。また安心して治療が受けれるように情報 を共有しています	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 人の思いというのは、その時々によって変わって行くので、段階 ごとに、話し合いを行うようにしています。またかかりつけ の医師、関係者とも連携をとり対応につとめています (外部評価) 重度化指針を作成し利用者や家族に説明している。看取り開 始時に同意書を得るようにしており、新たな入居者から順に 整備がなされている。ここ数年看取りのケースがないため看 取りを経験した職員が少なく、勉強会や外部研修など学ぶ機 会を増やす予定にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、対応出来る様に勉強しています。分からないことなどは調べたり、看護師さんなどに、こういった時にはどうしたらいいのか？と聞いたり、日常の中で学ぶ機会を持っています	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に二回避難訓練を行っていて職員はそれに参加しています。色々な場面を想定し、それによつての避難の仕方をみんな学んでいます。 (外部評価) 防災マニュアルを整備し、昼間と夕方を想定した避難・消火訓練を年2回実施している。運営推進会議で地域住民の参加呼びかけも検討され、民生委員の参加があった。今後は地域の防災訓練に参加し、地域の方々との交流の中で施設を理解してもらう予定にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声のかけ方、言葉使いに注意し、個性や本人の気持ち、思いを尊重しています (外部評価) 利用者の呼び方については、利用者や家族に確認し、名前や特別な呼び方など工夫をしている。また、トイレや入浴に関するプライバシーについてはしっかりと配慮されている。ファイル棚にはカーテンなどをつけて個人情報などに関する配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 言葉や思いを引き出せる様に、会話などを工夫しています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理をせず本人の体調やペースに合わせて、希望に添えるように支援しています	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気候に合った服装が出来る様に、季節ごとに服の入れ替えを行っています。気に入っている洋服を身に着けて頂きその人らしさを表現していただいています。定期的な散髪、カットの支援も行っています	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の物を取り入れながら献立を作成しています。一人一人に合った食べ物の形態にし、食べやすいように工夫しています。また魚が嫌いで食べられないなどに関しては、別の物をお出しして対応しています	
			(外部評価) 家庭的な献立となっており、旬の食材を取り入れている。2～3日分の献立を立てる際に利用者に直接問いかけ、希望を取り入れた献立作りを行っている。献立や味付けなどに変化を加える取組みがなされており、利用者個々の好みに応じる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 各個人に合わせた食事の量にて対応しています。水分も十分に取って頂けるように努めています。必要に応じてチェックリストも使用しています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) その人に合った口腔ケアを学び対応している。またケアが難しい方等は歯科衛生士さんに入っただき、ケアの仕方を教えてもらっています	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべく減らしていける様に、定期的なトイレの声掛けを行っているが、自立に向けた支援が行えていない。オムツやパットの使用が多くなってきているのが現実である	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握し、失禁の様態に合わせた声かけと時間やタイミングを変える取組みがなされている。また、おむつの使用量の軽減に気をつけている。運動や水分摂取など緩下剤をなるべく使用しない取組みがなされているが、難しい場合は下剤対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食物繊維の多い献立を心がけたり、水分を多く摂って頂いたりなど、便秘の予防に努めています。また、出ないときには医師の指導のもと下剤の服用も行っています	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴という事は難しいですが、なるべく希望に添える様に努力しています。その日の体調によって、入浴ではなく清拭、陰部洗浄にて対応する事もあります	
			(外部評価) 入浴時間についてはできる限り個々の希望に沿えるように配慮されており、より入浴を希望される方に対応するため週2～3回から週3回実施へと努力がなされている。汗や失禁などの状況や希望、季節に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) しんどそうな時には休むように声を掛けたり、豆電がついていないと不安だからつけておいて…、少し入口を開けておいて等、個人に合わせた休息や睡眠がとれる様に支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誰がどんな薬を飲んでいるか、個人の薬のファイルを作り理解に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食器を拭いて頂いたり、洗濯物をたたんで頂いたり、個人によってできる事は違うが役割を活かして頂いている。リクエストのあったメニューやおやつなどお出しし楽しんで頂いています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に添える様に努力はしているが、その日すぐどこかに行きたい！という対応は出来ない事が多い。体調などをみながら、お茶を飲みに出かけたり、買い物にでかけたり、散歩に出掛けたり等支援している	
			(外部評価) 利用者の希望に沿って予定を立てている。できる限り玄関先や駐車場への外出を心がけ、野菜や花の手入れを一緒に行っている。また、利用者の状況に応じて近所のスーパーやパン屋へ買物、散歩、ドライブなどの外出を支援している。	家族の参加が少ない面を改善させるために敬老会や誕生日会、家族との外食など家族が共に参加しやすい行事や外出などの工夫を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大きさを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人での所有は難しく、お金の所持は職員が行っているが、外出した際、好きにお金を使えるように支援しています	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時には電話や手紙などの連絡が出来るように支援していますが、難聴などにより、電話にて話せる方が少なくなっています	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関には季節の花や、野菜を育てています。リビングには季節の壁飾りなど一緒に作成し、飾っています。季節を感じて頂けるように心掛けています (外部評価) 利用者の写真や誕生日、好きなものなど紹介するカードが掲示され、季節感を演出する飾りが随所に見られるなどの工夫がなされている。日中はリビングや部屋で自由に過ごせるようになっており、それぞれの希望に応じて過ごしてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う人、合わない人、一人で食事を楽しみたい人など把握し、座る席などを工夫しています	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室には出来るだけ使い慣れた家具や持ち物を置き、各個人にとって使いやすい、暮らしやすい空間になる様にレイアウトを工夫しています (外部評価) 部屋にはベッド、エアコン、カーテン、タンスが備え付けられ、入居者の馴染みのもの（家具、テレビ、椅子、写真など）が置かれている。また、希望に応じて畳の使用も可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全に生活して頂ける様に、廊下など共同スペースにはなるべく危ない物を置かない様に心掛けています。利用者様が出来る事、わかる事に関しては見守りを行い、なるべく介助をせず自分で行える様に工夫しています。不安や混乱が無いように支援しています。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103862
法人名	(有)ティーエムコーポレーション
事業所名	すみれの里
所在地	松山市南高井1808-4
自己評価作成日	H27年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 9 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは玄関に四季折々の花を植えて利用者と一緒に世話をして力をいれている。個別のケアを目標に個々レベルに合わせてケアするのが普通となっている。笑顔で楽しく高齢者と話ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から約11年経過した事業所では、共有空間の様態替えをはじめ、花や野菜などの世話や収穫を通じて、季節感を感じてもらうことを大切に考え支援している。ユニット内では猫も同居し、自由に過ごせる雰囲気があり、職員の配慮ある声かけは入居者の安心した生活へとつながっている。職員は話しやすい雰囲気の下で、管理者や本部責任者などと日々話し合い、よりよい事業所作りに取り組んでいる姿勢は評価できる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 すみれの里

(ユニット名) しばもち

記入者(管理者)
氏名 若松紀代

評価完了日 平成 27 年 8 月 11 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念はトイレとリビングに飾られておりいつでも職員が観れ共有している。理念自体が分かりやすい理念となっている。	
			(外部評価) 約5年前に、理念がより分かりやすいものとなるよう職員アンケートを取り、その内容を素にして本部が作成した理念や基本方針へと変更された。理念は職員トイレとリビングに掲示されている。いつでも職員が見れる状況にあり、さらに管理者が職員に説明することで理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 祭り・獅子舞等交流している、去年は町内会長さんとお話することができました。地区の文化祭にも呼ばれ参加することが出来た。	これまで続けてきた努力を継続しながら、市社協、地域包括支援センター、幼稚園や学校などに声をかけて、地域のボランティアなどとの交流を実現することを期待したい。
			(外部評価) 地域の祭りや獅子舞などが事業所を訪れるなどの交流がある。また、地区の文化祭に呼ばれて参加している。昨年は南高井の文化祭にも参加した。昨年町内会長が交代し、町内会長に地域への積極的参加を申し出たが、現在は行事に関する情報提供に留まっている。地域の方に会えばコミュニケーションを取るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 民生委員さんの相談にのったり地域で歩いている高齢者を見つけたら必ず話しかけたりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出た意見は職員同士で話し合い実行出来る物は実行に移している。	
			(外部評価) 民生委員（2地区）、市介護保険課、松山市社協、地域包括支援センター職員、家族、利用者の参加を得て、行事報告、事故報告、感染症対策、虐待に関することなどを検討している。家族の参加者は少ないが、入居当初の会議には必ず参加してもらえるように声をかけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の職員とは運営会議に参加して頂けることから随分相談しやすくなった。会議後に相談すると必ず返事を頂いている。電話でも相談もしている。	
			(外部評価) 市の介護保険担当者とは話しやすい関係にあり、日頃から分からないことは運営推進会議の時などに相談できている。また、電話でも相談できる体制ができており、直接聞ける良い関係となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 虐待および身体拘束はホーム内研修でしており定期的に研修の議題として予定している。身体拘束しないように取り組んでいる。	
			(外部評価) 虐待や身体拘束に関する研修が実施されている。2階玄関は人を感知するセンサーを利用するなど、見守りや声かけなどの対応を心掛けている。虐待や身体拘束に関する研修後は、ミーティングや日々の話し合いで言葉かけやかかわり方への疑問を出し合うなどの意識が高まっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 運営推進会・ホーム内の研修でも虐待について話あっている。職員間で気軽に注意し合える関係を築くようにしている。不適切ケアについては職員が見える所に掲示してある	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ユニット会議で話し合っている。新聞等で話題に乗ることがあれば職員の意見を聞き興味を持ってもらうことから初めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはしっかり話し合い疑問点等再確認しているまた後日話し合いの場を設ける様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族の意見は運営推進会議等で発表して必要な事柄は管理者会議等で取り上げている。	
			(外部評価) 意見箱は設置されているが、利用者の家族から直接話を聞くことが多い。得た意見は職場内で検討したり、上司に報告しグループ内の会議にかけるなど、改善する方向で取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営に対する蒋区員の意見や提案を積極的に聞くようにしている。	
			(外部評価) ユニット内ミーティングや日常会話の中で意見を言いやすい状況があり、管理者は職員の意見やアイデアを積極的に取り入れようとしている。人手不足に関する要望など言える雰囲気があり、施設内やグループ内における風通しは良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 現在は職員不足にて職場環境が整ってるとは言えない。職員不足に関しては会社が職員確保に向けて積極的に動いてるとは思えない。職員不足が慢性化している為	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内の研修をひと月に1回行うようにしている。外部研修も行くようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者会議等でグループ内の活動報告等を聞いて参考になっている。運営推進会議では他のGHの取り組み等も聞いて参考にしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族・その他の関係者より入所時に情報収集をして関係づくりに取り組んでいる。本人から情報収集が無理な時は行動・会話の中から要望を取り込んでいる	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 見学时に困っている事等聞いて関係づくりに取り組んでいる。特に相談等は時間を掛けて聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ホームで手伝える事出来る事は積極的に行っている。必要であれば専門家に相談する。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人との関わりを多く取りひとつの作業を一緒にすることによって関係を築いていく。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の中には家族がいなかったり・家族の高齢化がすすんでいる事もあるので個々に対応している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なじみの美容師さんを利用したり、友達が訪ねて来れやすい環境づくりをしている。面会に規制は設けてない。以前のケアマネさんとか訪問していたヘルパーさん等気軽に面会に来てもらっている。 (外部評価) 馴染みの美容師さんの訪問や友人の訪問を応援している。また、以前利用していた介護保険サービスの従業者との交流もある。さらに、以前勤めていた職員が訪れるなどの交流により、馴染みの人との関係を保てるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 外出時仲の良い利用者同士を隣の席にしたり、テーブルも気の合う利用者同士ですわっている。利用者同士が居室を気軽に訪問出来るようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院退所されている利用者は病院に見舞いに行っている家族とも連絡を取り合っている。他の施設に入所されている方には家族の許可を得て面会に行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの思いや生活の意向の把握が難しくて分からない場合は職員間で話し合っている。 (外部評価) 業務中に管理者が疑問を投げかけて職員間で話し合いを持ち、利用者の生活上の思いや意向を理解するように努めている。職員は、言葉を発することの少ない利用者の思いが十分に把握できていない、できることが少なくなりつつあると感じ、改善の方策を模索している。	利用者の残された能力を引き出すためには、危険を防止しつつできることにチャレンジする必要がある。利用者と共に行動する場面を作り、利用者の思いを知り、利用者がしたいことが分かる取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時に情報提供書・その他の情報を提供でサービス利用の把握につとめている。家族からの情報提収集に時間をかけている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 出来る事出来ない事を記録に残し職員全員が共有している。個々で起床時間も違うし食事時間も違う。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会議でプランの評価・次のプランの話し合いケアプランを元にその人らしい生活をおくってもらえる様いけんを出し合っています。	
			(外部評価) 各ユニット会議やミーティングにおいて担当職員が日々の観察をもとに考え提出した内容を検討し、管理者や計画作成担当者が職員全員に話をしながら意見をまとめ、その人らしいケアプランの作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の流れの中でその人にあったケアを進めている。毎日が違うので本人が生き生きと生活出来るようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々のニーズに対応出来る事はやっている。職員の数が少ないので出来る事はかぎられている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近くの公園に散歩に行つて近所の方たちと話したりパン屋に買い物に行ったりしている。近所の商店の方たちとの交流はある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医は家族が望む医療機関をえらんでいる。他科へ の受診はかかりつけ医と家族と相談しながら受診援助してい る。</p> <p>(外部評価) 入居時にかかりつけ医に関する説明を受けて選ぶことがで き、協力医療機関2か所から月2回ずつ往診や随時の協力体 制がある。また、家族が協力できるようであれば以前のかか りつけ医での対応も可能である。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 早い段階での状態変化・異常に気付くと医師や看護職員家族 と連携をとりながら一人一人の健康管理等に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院したらカンファレンスがあり利用者に携わっている他職 種があつまり退院に向けて話あっている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所時の契約のときに重度化した看取りの指針を家族に説明 して話合っている。状態が変化したらその都度話合うように している。</p> <p>(外部評価) 重度化指針を作成し利用者や家族に説明している。看取り開 始時に同意書を得るようにしており、新たな入居者から順に 整備がなされている。ここ数年看取りのケースがないため看 取りを経験した職員が少なく、勉強会や外部研修など学ぶ機 会を増やす予定にしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し適切な対応が出来る様備えている。体調や環境の変化等日々の情報を共有し初期対応を速やかに行なえる様配慮している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域との協力体制と照れるように努力している。近隣にGHがあることを知って頂き災害時の協力体制をお願いしている。 (外部評価) 防災マニュアルを整備し、昼間と夕方を想定した避難・消火訓練を年2回実施している。運営推進会議で地域住民の参加呼びかけも検討され、民生委員の参加があった。今後は地域の防災訓練に参加し、地域の方々との交流の中で施設を理解してもらう予定にしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の人権や誇りプライバシーを損等する様な声掛けや対応を心掛けている。そのような配慮に欠ける声掛け対応をしていたら職員間で注意・はなしあっている。 (外部評価) 利用者の呼び方については、利用者や家族に確認し、名前や特別な呼び方など工夫をしている。また、トイレや入浴に関するプライバシーについてはしっかりと配慮されている。ファイル棚にはカーテンなどをつけて個人情報などに関する配慮も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者のことばを引き出すように会話を工夫している。希望が出た場合は出来るだけ叶える様に努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調や病状に配慮して、個々の希望やペースに沿って生活して頂いてる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自身で希望される方はその都度支援している。そうでない方も含め気温や季節に合った服装が出来る様に支援している。定期的に散髪し清潔にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 同じ料理や献立でも毎回味付けや形状を変えてみたりと工夫している。個々の好みを聞き相談して献立を組む様に心がけている。 (外部評価) 家庭的な献立となっており、旬の食材を取り入れている。2～3日分の献立を立てる際に利用者に直接問いかけ、希望を取り入れた献立作りを行っている。献立や味付けなどに変化を加える取組みがなされており、利用者個々の好みに応じる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) その人の好みに合わせたり好きな味付けにして摂取量が増える様に考慮している。水分量は毎日測定しており一日の水分量の目安が決まっている人もいる。旬の物取り入れたり魚や肉が毎日摂れる様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科衛生士に週一回口腔ケアを受けておりケアの難しい人は相談している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的な声掛け誘導を行っているが自立に向けては難しくおむつに頼っている所がある。安易におむつ使用しないようにしている。	
			(外部評価) 利用者ごとの排泄パターンを把握し、失禁の様態に合わせた声かけと時間やタイミングを変える取組みがなされている。また、おむつの使用量の軽減に気をつけている。運動や水分摂取など緩下剤をなるべく使用しない取組みがなされているが、難しい場合は下剤対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排便や水分のチェックを行い適度な運動と水分を進め下剤も必要に応じて使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の予定は予め立てているが個々の要望に応じ対応している自立の方は見守りと本人の希望にて手伝っている。	
			(外部評価) 入浴時間についてはできる限り個々の希望に沿えるように配慮されており、より入浴を希望される方に対応するため週2～3回から週3回実施へと努力がなされている。汗や失禁などの状況や希望、季節に合わせて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 就寝時間は本人に任せている、気持ちよく眠れる様に室温等に注意している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の持病を把握し個々に処方されている薬や薬の副作用・用法等を理解日々観察の元服用して頂いている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 買い物等ある時は利用者同行している。個々によって出来る事が違うので個別に対応するようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出は利用者の希望に沿って予定を立てている、又毎日の外出は遠くに行かなくて駐車場でもよいので出る様にしている。 (外部評価) 利用者の希望に沿って予定を立てている。できる限り玄関先や駐車場への外出を心がけ、野菜や花の手入れを一緒に行っている。また、利用者の状況に応じて近所のスーパーやパン屋へ買物、散歩、ドライブなどの外出を支援している。	家族の参加が少ない面を改善させるために敬老会や誕生日会、家族との外食など家族が共に参加しやすい行事や外出などの工夫を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を待っている利用者がいてコンビニ等で買い物する時は自分で支払ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用から手紙を頼まれたりしている。電話は難聴の方が多いので本人自ら電話する事は少ない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感がある壁紙をつくったり季節に合った飾り付けをしようとしている。居室は職員がいても心地よい環境作りを心掛けていり。 (外部評価) 利用者の写真や誕生日、好きなものなど紹介するカードが掲示され、季節感を演出する飾りが随所に見られるなどの工夫がなされている。日中はリビングや部屋で自由に過ごせるようになっており、それぞれの希望に応じて過ごしてもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングの真ん中に誰でも座れるソファを置き居場所の工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベッドの位置も本人と相談して決めている。なじみのタンスやいつも使っている物を持参して頂くようにしている。 (外部評価) 部屋にはベッド、エアコン、カーテン、タンスが備え付けられ、入居者の馴染みのもの（家具、テレビ、椅子、写真など）が置かれている。また、希望に応じて畳の使用も可能となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 布団やベッドも選ぶ事ができ、畳も本人が希望すれば敷くことが出来るようにしている。	